浜松南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米蔵町
印刷
浜松共同印刷株式会社

適当？がく然？この結果

「校訓知らず　校歌歌えず」

南校生の実態に迫る

―愛校心アンケート結果報告―

本校も来年いよいよ創立二十五周年を迎える。昨年、配布された本校の同窓会名簿に目を通すと、卒業された先輩諸氏の各方面でのご活躍を伺い知ることが出来る。卒業生の方々の年齢層も十代、二十代、三十代と広がっていき、二十五年の歳月の重みと、現在も進行中である本校の発展の息吹を感じずにはいられない。

来年は記念式典等で盛り上がりを見せるであろう本校であるが、二十五周年を前にして南高新聞では在校生がどのくらい母校となる本校の事について興味、関心があるのか等のいわゆる生徒一人一人の「愛校心」なるものについてアンケートをとってみた。校訓、校章、校歌、本校の特色、生徒自身の学校に対する自意識等が主たる調査項目であったが、在校生の「愛校心」その結果や如何に？

あなたは知っている？　本校の校訓

"「最善をつくそう」これは言わずと知れた本校の校訓である"という文言が通じない生徒が全体の33%、約三割は校訓は何か？と聞かれて戸惑うという実態が表われた。そもそも校訓とは、その学校の最大の努力目標とも言えるべきものであり、それをすぐに思い出せないということは目標に向かって行動することなど到底無理な話であり我々の目的意識の低さが浮き彫りになったのである。三年生になって、面接試験の時だけ頭にただき込むような、体裁を整えるだけのいいかげんな校訓にだけはしたくはないものである。

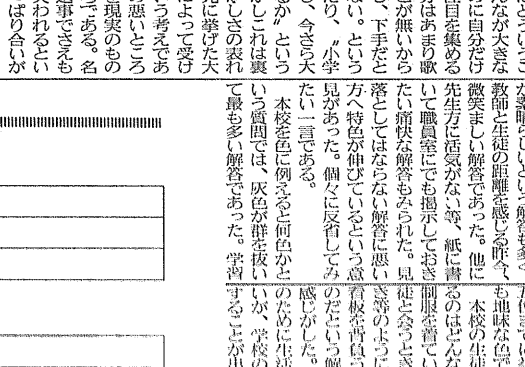
校章については生徒指導の対象となる校章バッジのおかげか85%の人が何も見ずに形を思い浮かべることが出来るようだ。校章が象徴しているものを知らない学数の人は、生徒手帳にその説明が載せられているので、ぜひ一読しておいていただきたい。

「校内に歌声を」という目標で今年度は学校を挙げて取り組もうとした年であった。しかし生徒の意識を見てみると自分達集会等のとき、校歌を大きな声で歌っていないということを肯定する生徒が九割近く存在するのである。一体、生徒は歌おうとする意志がないのか、歌えないのか。これを考えるのに二つの原因があると思われる。

一つ目の原因として考えられるものは、本校の校歌を何も見ずに何番まで歌うことが出来るか？という質問での57%の生徒が一番まで、27%の生徒は一番

純粋さを我々から奪っていくようで腹立たしい。一人一人の意識改善が求められそうだ。また、校歌を大きな声で歌えないのは本校の校風、そして伝統であるという珍解答もみられたが、笑った後でギクリとさせられる解答である。

本校の特色については、立地場所に関したことや、併設校である等の外見的特色と、活気がない、三無主義等の内面的特色に分かれた。内面的特色では全体的に悪い特色が多く書かれていて生徒が自分達の作っている学校に対してよい印象をもっていないことが分かった。「特色がないことが特色」という解答も出されたが、本校が形として存在している以上、何か、特色を見つけることも出来るような気がするのだが……。校長先生が素晴らしいという解答も多く、教師と生徒の距離を感じる昨今、微笑ましい解答であった。他に先生方に活気がない等、紙に書いて職員室にでも掲示しておきたい痛快な解答もみられた。見方へ特色が伸びているという意味で最も多い解答であった。学習



落としてはならない解答に悪い意識が弱いことである。外国のような環境の中では落ちついた気質など育つはずがない。ここで済ませてしまいがちである。

ならば一体どうすれば良いのだろうか……現状からでは、根本的な解決は難しそうである。しかし、ゴミは捨てなければ増えないのであるから、まずはゴミを捨てさせないようにすることから始めなければ。

そのためには、まず、規制で人を縛るのではなく、呼びかけの形で国民の意識を高める方法がある。例えば、白山国立公園などでは、ゴミ箱を置かずに「ゴミは自分で持ち帰りましょう」と書いた立て札を立てている。また浜松市では、数年前から「ゴミ十%減量運動」を行っている。そして、共にかなりの成果を上げているという。

しかし、それでもまだゴミを捨てる者は、もはや社会に対する反逆者である。周辺の住民はこのような者に対して「見て見ぬふり」をせず、厳しく注意や抗議をすべきではなかろうか。

「ゴミを捨てない」ということは、誰でも最低限持っているべき理性である。しかしそれさえも実行することが出来ないのならば「日本人＝公衆道徳の欠如」という汚名を返上することは、絶対に不可能にちがいない。

論説

ちりも積もれば……

ゴミは今、どこでも捨てられている。観光地、側溝、道端など至る所ゴミだらけである。そして、それらは拾っても拾っても、減るどころか、逆に増えていく。そのため、周りの環境は汚れ、景観は損われている。勿論、そのようなことは、誰もが悪いと思う事態であろう。

それにもかかわらず、なぜ、ゴミがこのように沢山捨てられているのか。

まず一つは「自分さえ良ければ良い」という考え方である。釣り糸が鳥にからまっても、ビルの上から落したゴミが下の人に当たっても、自分には関係ないという利己的な考え方によるものであろう。

第二は、企業の宣伝と、政府の政策である。企業は、高度経済成長の中、自分の企業が少しでも利潤が上がるよう、国民にすらせる「足りることを知るな」と宣伝に努めてきた。企業が利潤を上げれば、税収は上がる。だから政府も企業の発展にマイナスとは出来ない。

三つ目は、政府の対策である。最近「空き缶の車からの投げ捨ては、減点の対象とする」という法律が出来た。だが、罰則は限らず公害の多くは、企業の論理と政府の経済至上主義によってもたらされた側面を見逃すことは出来ない。

三つ目は「自分達の住む環境は自分達で美しくする」という意識が弱いことである。外国では、落ちているゴミは、他人に放ち、やがては野良犬や野良猫が住みつくようになる。勿論このような環境の中では落ちついた気質など育つはずがない。ここで済ませてしまいがちである。

ならば一体どうすれば良いのだろうか……現状からでは、根本的な解決は難しそうである。しかし、ゴミは捨てなければ増えないのであるから、まずはゴミを捨てさせないようにすることから始めなければ。

そのためには、まず、規制で人を縛るのではなく、呼びかけの形で国民の意識を高める方法がある。例えば、白山国立公園などでは、ゴミ箱を置かずに「ゴミは自分で持ち帰りましょう」と書いた立て札を立てている。また浜松市では、数年前から「ゴミ十%減量運動」を行っている。そして、共にかなりの成果を上げているという。

しかし、それでもまだゴミを捨てる者は、もはや社会に対する反逆者である。周辺の住民はこのような者に対して「見て見ぬふり」をせず、厳しく注意や抗議をすべきではなかろうか。

「ゴミを捨てない」ということは、誰でも最低限持っているべき理性である。しかしそれさえも実行することが出来ないのならば「日本人＝公衆道徳の欠如」という汚名を返上することは、絶対に不可能にちがいない。

愛校心アンケート結果

①本校の校訓を知っている

Yes 67%	NO 33%

②校章を何も見ずに思いうかべることができる

Yes 85%	NO 15%

③校章は何を象徴しているか知っている

Yes 49%	NO 51%

④何も見ずに何番まで校歌が歌えるか

3番まで9%	2番まで7%	1番57%	何も歌えない 27%

⑤本校の生徒は校歌を大きな声で歌えないと思う

そのとおり89%	なんとなくそうでない11%

⑥校歌を大きな声で歌っているか

歌っている 14%	歌っていない86%

⑦本校の特色

1	活気がない
2	無気力
3	いなか、併設校

⑧本校の色

1	灰色
2	白
3	青
4	緑
5	茶色

⑨どのようなときに本校の生徒であると意識するか

1	制服をきてるとき
2	学校にいるとき
3	他校の生徒にあうとき
4	部活のとき
5	意識しない

⑩南校の悪口をきいたときどう思うか

腹立だしい 62%	何とも思わない38%

⑪南高の生徒であるという誇りをもっていますか

Yes 54%	NO 46%

人を語る

芸人達の人生に思う

寺田達之先生

今回は恒例の文化展人気投票でNo.1になられた寺田達之先生にご登場いただいた。

先生は尊敬する人物として「昭和の名人」と言われた二人の落語家をあげられた。桂文楽と古今亭志ん生である。

桂文楽は洗練された隙のない芸を極めた人だった。晩年の文楽は、高座で話を忘れてしまう時がくるのを怖れていた。しかしその時は確実にやってきていた。その時、文楽は、「もう一度勉強し直して参ります」と楽屋へ下った。先生はその情景が目にみえるようだ、と言われた。

文楽がその言葉を言い終わると、客に深々と頭をさげ高座に上がった。そして、そのまま高座に上がることなく、文楽はこの世を去った。人々は、晩年の文楽は、永遠に高座を降りるその瞬間まで高座をつとめていたのではないか、と噂した。

文楽が死んだとき、志ん生は

古今亭志ん生は、八方破れの人生を送った。師匠の着物を質に入れて飲んでしまって破門になったりすることもしばしばだった。そんな時でも落語の稽古だけはやめなかった。晩年は中風で体の自由もきかなかったが、彼自身二度と高座に上がることはなかった。それほど、志ん生は高座に床の中でも落語全集を読んでいた。

文楽が芸人達の生きる場所であるように、教師にとっての教壇もまた然りである。一つ一つの授業から何かを学んでいく。それは芸人の高座のように、その一時間一時間が生きている時間だと締めくくられた。

布団をかぶって声を出して泣いたという。その志ん生も数年後にこの世を去った。不自由な床で落語全集でネタおろしを考えていた志ん生。泥酔してそのまま高座で眠ってしまった志ん生。あくまでも高座に上がることにこだわり続けた人生であった。

さて、このような対照的な二人を並べてみた時、先生自身の生き方は、文楽に近いようだし、志ん生のようなところもあると言われた。

高座が芸人達の生きる場所であるように、教師にとっての教壇もまた然りである。一つ一つの授業から何かを学んでいく。それは芸人の高座のように、その一時間一時間が生きている時間だと締めくくられた。

遠州灘

風が一段と冷たくなってきました。二学期も終わり、いよいよ冬休みの到来です。皆さんはこの休みをどのように過ごされるでしょうか。進学を控えた三年生の先輩方には恐縮ですが冬休みは自分の好きな事に時間を費せる数少ないチャンスの一つです。どこか遠くへ旅をするのもいいのではないでしょうか。

ところで一口に余暇、レジャーといいますが、日本とヨーロッパとではその考え方も随分と違うようです。欧米人はレジャーの目的をあくまで「休息」と考え、その間はゆっくり過ごします。ところが、日本人にはそういう過ごし方ができません。「めいっぱい楽しまねば損」と考え、平日以上に動き回ります。その結果、休み明けにはぐったりとしてしまい、仕事も手につきません。週休二日制は、そうしたレジャー疲れを仕事に持ち込ませないためにも必要だという声さえある程です。

こういった国によるレジャー感覚の違いは、その国の風土を反映していて実に興味深いものです。日本人は、何をするにしてもなにかしら得るものがないと満足できません。それも具体的な収穫が。また、休日そのものも少なく、しかもそれさえ会社や学校に縛られている。この辺りが「日本型レジャー」を形成する要因でしょう。

しかし日本も経済的に発展しました。そろそろ本当の生き甲斐を模索すべき時期に立ち入ってきているのではないでしょうか。「ウサギ小屋に住む働きバチ」は決して誉め言葉ではないでしょう。今が、この言葉の返上に本腰を入れるべき時だと思うのですが……。

正しいメガネでしあわせを…
メガネの青田屋
広小路店 浜松駅前広小路通り ☎53-1188
旭町店 浜松駅西口前(星宝ビル1階) ☎54-0188
高台店 浜松・中一丁目(ユニー館) ☎73-8118

購売委員会
営業時間
13:00～13:15

贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314－1　TEL54－6358代表

河合塾
申込受付中
（第3回）高1
全統 実施日 2月1日(日) 模試
（第4回）高2
学校法人 河合塾／全国進学情報センター
浜松支局　〒430 浜松市田町324-3 住友生命浜松田町ビル内3階
（河合塾浜松事務所内）　☎(0534)53－5581

谷島屋書店
YAJIMAYA
浜松市連尺町309－1　☎53－9121(代)

御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃 夏スカート
〃 コート
男子制服詰エリ
生地純毛日毛カシドス地
ギャバ地
御調製
大森洋服店
浜松市佐藤町　TEL (61) 3288

空転！ひとり相撲の執行部

「あなた任せ、他人任せが本校生徒会のモットーだ」

七月に発足した宮田直大会長率いる執行部も十二月でその任期を終える。球技大会、水泳大会、体育大会、文化展パートII等々、数多くの行事の企画運営を行うばかりでなく、各委員会の統率という気の抜けない仕事が多い執行部であるが、一般の生徒会会員は執行部の活動振りや生徒会活動についてどれほどの関心をもっているのであろうか。執行部からの要請もあり、アンケートをとって調査してみた。少しきつい質問も含まれていたが、それに劣らないきつい解答も返ってきた。「生徒会行事に積極的に参加するか」と問われて、九割近くの生徒が「NO」と答えている現状をどうとらえればよいのか。

執行部と一般会員との関係のあり方は難しいが、両者の距離の広がりの大きさには深く考えさせられるものがある。

意気盛んな宮田会長だが……

一学期末に発行した南高新聞第七十六号は〝異色の布陣〟と題して執行部内の各役員紹介を取り上げている。〝異色〟という言葉に宮田会長も懸念を感じたようだったが、今、改めて彼らの活動振りを振り返ってみた時、その熱意の程にやはり〝異色〟めいたものを感じるのである。そしてそこまで感じさせた執行部や、彼らが行った生徒会活動を一般の会員はどう見ているのであろうか。

「宮田執行部による活動はどこが活発で、どこが活発でないか」という問いかけを会員にしてみた。「活発だと思うところ」の解答では、42%の会員が〝やる気〟と答えている。生徒会活動を企画するだけでなく、全生徒会会員をそれに参加させ、活動の盛り上がりを計るという大仕事には当然のことながら実行力、行動力が必要だが、それ以前のものとして、この〝やる気〟が必要ではないのか。つまり極端な話をしてしまえば執行部とは「やる気」、そして「企画力」、「一般会員を引きつける魅力」、この三本柱を組むだけであって、「実行力、行動力」を大いに発揮しなければならないのは、実は生徒会の一般会員側なのであるということだ。

こういった視点で見てみれば「宮田執行部で活発だと思うところ」の解答が「やる気」42%「行事等の企画性」23%という結果になったことは「執行部本来の有り方」という点で良い評価に値するのではないかと思われる。

逆に「活発でないと思うところ」という質問で35%の会員が「一般会員の中へのとけこみ方」と答えている。しかし、現執行部は一般会員の中に特に積極的に入っていこうとした執行部であったと思われるが、どうであろうか。むしろ、それを受け入れなかったのは我々一般会員ではなかったであろうか。よく「執行部はどんな活動をしているのか分からない」という声を聞く。確かに執行部というものは我々の意識の中で大変存在の薄いものとして考えがちである。しかし、ここにこそ我々が仕出かしている大きな間違いがあり、我々の受動的な態度、無責任さがはっきり表れているのである。

このことはこれから解説していく質問項目の解答の結果にも言えることであり、生徒会役員と会員との距離を感じるところである。

執行部が新しく試みている「生徒会アワー」、「生徒会ノート」についての会員の意識を見てみたい。生徒会アワーについては全体の七割近くの生徒が「聞いていない」現状である。「内容がつまらないから」という解答が聞いていない理由の39%を占めた。しかし生徒会行事や応援団の説明をつまらないと一蹴してしまえば話にも何にもならないわけである。生徒会関係の行事や活動の本当の面白さとはどういったことかを考え直してほしい。

ただ、生徒会アワーを放送した側にも問題がないわけではなかった。〝会員に分かりやすく説明を〟という考えが働きすぎて、ラジオのディスクジョッキーさながらの語り調子になり、聞く側に嫌みを感じさせてしまったことも無視できないところである。

生徒会ノートについては「存在も知らない」会員が42%、知っていても「意見を書いたことが無い」会員が82%である。執行部に直接、意見が届くという、いわば「目安箱」的なものである生徒会ノートについては会長の宮田君も熱心にペンを執り、返答を書き添えている。執行部と会員との直通パイプであるのでぜひ活用したいものである。

ところで今年の「砂の芸術」は授業時間を割いては行われず十曜日の放課後、有志の人を募って行われた。部活関係でなかなか時間が取りにくかったであろうと思われる人もいたが、それにしても有志の人達の人数の少なさ。また参加していても執行部の指示に耳を貸さず波打ち際で遊んでいる人たちの姿を見るとやりきれない思いがした。現に「あなたは生徒会行事に進協力性を点数で表すと何点ぐらいか」という質問には29%の会員が0～10点の間の点数しか自分にはつけられないとしている。そして54%、半数以上の会員が自分の協力性を0～30点の間に置いてしまっている。これを見れば〝生徒の生徒による生徒のための生徒会〟などという当たり前の原則など生徒の意識の中から消え去ってしまっていることが分かる。いや、もともと、そのような意識をもつことすらなかったのではないか。ただなんとなく選挙をして、なんとなく役員を選び、いつのまにか執行部が成り立っていた、という程度しか会員は感じていない。しかし、文句だけはムキになって言う。意見ではない。文句である。現南高生徒会は多くの利己主義、無気力人間が集まっているだけといっても過言ではあるまい。確かに宮田執行部にも馴染みにくいところがあった。だが「執行部の活動振り、0～10点」というのは「顧みて他を言う」ことになりはしないだろうか。

執行部は「熱っぽく」、一般会員は「冷めている」という感がした宮田執行部の任期期間中であった。いや、むしろ一般会員は同じ「冷」という字を使えば「冷たかった」と、した方が当てはまる気さえする。

執行部の努力と苦労は、一般の会員に伝わることなく終わった。

宮田執行部もその例外ではなかった。

意識の低い会員が多い中、新執行部発足が近づいている。

会員の関心が薄かった「砂の芸術」

人物スポット ～本校の雄～

32HR 小澤勇介君

今秋、山梨県下で繰り広げられた「かいじ国体」に、少年男子バレーボールの部で出場した、32HRの小澤勇介君を訪ねて、お話をうかがってきました。南高のバレー部は、昨年の夏、インターハイにも出場し、小澤君はセンタープレーヤーとして活躍。しかもキャプテンとして、チームのまとめ役を見事にこなすなど、文字通りチームの大黒柱的存在でした。それでは、南高のホープ、小澤君のインタビューを始めていきたいと思います。

①バレーをはじめたきっかけは何ですか。

――小学校のとき、ミニバスケットをやっていましたが、中学校へ入学してバスケット部がなかったので、一番らくな部活と思われたバレー部に入部しました。しかし、途中で先生が変わって一番つらい部活になったのには……まいった。でも尾藤先生にめぐりあえたことによって南高のバレー部に入部する道が開けたことに、僕は感謝しています。

②バレーをやっていてうれしかったことをあげてください。

――中学校のとき、公式戦で一度も勝ったことがなかったので、高校に入って初めて出場した西部地区大会で、優勝できたこと。何しても勝つことはうれしいことです。それから、インターハイ出場と、国体出場。とくに国体で、三回戦で宮城選抜に勝てたことが最高だったなあ……。

③バレーをやっていて、つらかったことはどんなことですか。

――一言でいって練習（とくに真夏と真冬）…きつかったなぁ。

④国体の成績はどうでしたか。

――ベスト8進出で

一回戦 vs 茨城 2－0
二回戦 vs 滋賀 2－0
三回戦 vs 宮城 2－1
準々決勝 vs 埼玉 0－2

という結果でした。

⑤国体の感想を言ってください。

――レベルの高さには、たいへん驚きました。はっきりいって、全国レベルでは、自分の存在が、大変小さいことを感じさせられました。あと、ベスト8入りが、とてもうれしかったです。それから、全国のベスト4入りのかべのあつさを痛感しました。

⑥坂上先生の印象はどうでしたか。

――最初のころは、どうもこわかったけれども、今はあまりこわいとは、思わなくなりました。坂上先生は、あまりおこらなくなったからだと思います。何にしても、坂上先生と知り合えたことは、自分にとって、とてもプラスになっているように思われます。

⑦バレーを通して得たものは、どんなことがありますか。

――ふつうなら根性とか、精神力とかがつくかもしれないけれど、別に根性はないし、精神力とかもぜんぜんついていないと思います。まあ得たものっていえば、試合に勝つことで、努力すれば必ずむくわれるってことがわかりました。それと、技術面では、けっこう高等技なんかも少しはマスターできたし、キャプテンとしてチームを引っぱるってことが、どういうことかもわかりました。高校総体、国民体育大会にも出場できたし、ど

大活躍！　バレー部の星

⑧将来の夢について、今、何か考えていることはありますか。

――何になるんでしょうか。はっきりいって何も考えていません。

⑨後輩に贈る言葉は

――僕のよくないところは、まねしない方が身のためだと思います。

これまでの最高記録は、インターハイ出場だけなので、一回戦突破、二回戦進出を目指してほしいです。とにかくがんばってもらいたいものです。

生徒会活動について

1．現生徒会執行部の活動について

活発だと思うところ

①23%	②18%	③8%	④42%	⑤9%

活発でないと思うところ

①28%	②19%	③35%	④12%	⑤6%

①行事等の企画性　②行動力
③一般会員の中へのとけこみ方　④やる気
⑤その他

2．昼の放送の生徒会アワーを聞いていますか

聞いている34%	聞いていない66%

聞いていない人はなぜ聞かないのか

①39%	②21%	③18%	④8%	⑤14%

①内容がつまらない
②周囲がうるさくて聞こえない（聞く意思はある）
③聞く意志がない
④存在も知らない　⑤その他

3．生徒会ノートの存在を知っていますか

知っている58%	知らない42%

知っている人はノートに意見を書いたことがありますか

ある18%	ない82%

4．生徒会行事に進んで参加するタイプですか

はい14%	いいえ86%

5．執行部の活動ぶり

①10%	②5%	③6%	④10%	⑤23%	⑥12%	⑦14%	⑧11%	⑨4%	⑩5%

①0～10点　②11～20点　③21～30点
④31～40点　⑤41～50点　⑥51～60点
⑦61～70点　⑧71～80点　⑨81～90点
⑩91～100点

6．自分の協力性

①29%	②10%	③15%	④13%	⑤10%	⑥6%	⑦5%	⑧5%	⑨4%	⑩3%

①～⑩→5と同じ

編集後記

「冬将軍」の本格的な到来で寒さもひとしお身にしみる頃となりました。「今年ももう終わりか。早かったな」という会話が皆さんの間でも交わされていることと思います。

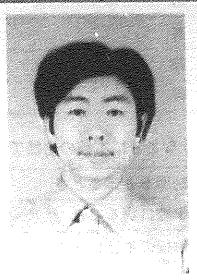
さて、我が新聞部も「南高新聞　第七十七号」を無事、発行することが出来ました。今回は「本校生徒の愛校心」「生徒会執行部や生徒会活動に対する会員の意識」を特集として、生徒の皆さんにそれに関するアンケートをしていただきました。皆さんの生の声を聞くことが出来、大変参考になりました。ご協力ありがとうございました。

新聞部内では抜群の文才をもつ先輩方が実質的な活動を離れられたため、今回から未熟な一、二年生だけで新聞作りをしました。企画、割付け、原稿書き、という新聞部にとっては当たり前の仕事も、いざ自分達が責任をもってやることになると、その難しさを改めて痛感させられます。「読みやすく、分かりやすく、かつ最も新聞らしく」を目標として頑張ってきたつもりですが如何だったでしょうか。皆さんの忌憚のないご批判をいただければ幸いです。

我々も、新聞を発行することが出来、安心して年を越すことが出来そうです。皆さんも、やるべきことは早めに済まして、事故のない、充実した冬休みを送って下さい。

よいお年を。

校内TOPICS


山下伸幸先生

盗難発生ご用心!!

去る十一月五日、二時限目にとんでもない男がこの南高に侵入した。

〝盗みのハシゴとは！〟

一、浜松西高から制服を盗み
二、ちゃっかり西高生に成り済まして本校に侵入し
三、加えて三年生の男子生徒と会話を交わす。

皆さん、信じられますか？この男の図々しさ……

思いだすだにいまいましいのですが、このような事件は本校では初めてというわけではありません。

外部からの侵入が忘れた頃に繰り返されます。

このような図々しい人間に一度ならず二度も私達はお金や貴重品を盗られるなんて、くやしくありませんか？

特別教室、又は体育などの移動の際には、財布・貴重品は各自で管理するか、貴重品袋を利用するなどのちょっとした心遣いが盗難に対する最大の防御策でしょう。

二度と盗難の被害者にならないように、お互いに注意しあいましょう。

新任講師紹介

社会科の増田先生が交通事故による入院のため新しく講師の先生が赴任されました。

そこで新聞部では早速、山下先生をお訪ねして以下の質問にお答えしていただきました。

①担当教科
②出身校
③生年月日
④血液型
⑤南高の印象
⑥趣味
⑦自己PR
⑧生徒に一言
⑨抱負

①社会科
②東京学芸大学
③昭和三十五年六月二十九日
④A型
⑤雰囲気が良い
生徒の生活態度が良い
普通科に女子生徒が少ないので驚いた
女子だけのクラスを初めてうけもって難しいと思った
⑥テニス
⑦今いち先生になりきれていない所があるようにそこがかえって魅力かな……
⑧最近は情報が氾濫しているけれど、そんな事に振り回されずに自分の一番必要な情報を選び出せるようになっていただきたい。
そのためにも地理は是非必要です
⑨よりおもしろい授業が出来るように努力していきたいです。

本とレコードの店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館
☆高林バイパス沿いにOPEN！
広い店内には本あり、レコードあり、ビデオあり
まさに文化を楽しむお店です。
夜10：00まで営業　駐車場完備
MAP　テンジンヤ　愛知銀行　高林バイパス　イケヤ文楽館　東海洋服
イケヤ　本店　浜松市田町有楽街　〈0534〉52－5151
鍛冶町店／文楽館高林店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／袋井店／浜北店

コンタクトのアイシティ浜松
O_2透過性コンタクトがさらに進歩！
今がチャンス
最新の材質が酸素をよく通し、やわらかく水ぬれ性に優れていますので、装用感がさわやかで、瞳に無理な負担がかかりません。毎日のお手入れも簡単です。ハイドロケアや煮沸消毒はいりません。
新発売
瞳イキイキ酸素がかようコンタクト
オールメーカー
コンタクトレンズが
な、なんと
学生ご優待価格で！
瞳イキイキ酸素がかようコンタクト
HOYA HARD/OP（オーピー）
●受付時間　10:30A.M.～6:30P.M.
●休　日　水曜（日曜・祭日は平常通り）
☎0534(55)1383(代)
〒430 浜松市旭町11-1 プレスタワービル8F
MAP　日産　富士BK　銀冶町大通り　松菱　プレスタワービル8F　バスターミナル　浜松駅

国内旅行は赤い帆船／海外旅行はMACH
㈱日本旅行　浜松営業所　浜松市田町329－20（遠鉄名店ビル北）☎〈0534〉54－4371(代)
浜松駅旅行センター　浜松市砂山町官有無番地（国鉄浜松駅構内）☎〈0534〉54－3501(代)
旅の事は、お気軽にご相談下さい。
卒業生　小幡利也

安心・安全・快適
あなたの街の交通公社
一枚のキップから修学旅行・海外旅行にいたるまでなんでもご相談・ご用命下さい。
浜松市鍛冶町312-18（西武デパート前）　0534－53－2111

スーパーグリーン
FRESH No.1
いぐち
県立浜松南高校前
浜松市法枝町616
TEL 41－0050